

会議名	先端技術を活用した農林水産研究高度化事業成果発表会
開催日時	平成 16 年 11 月 19 (金) 10:00～16:55
開催場所	発明会館ホール (東京都港区虎ノ門 2-9-14)
主催者	(社) 農林水産技術情報協会(研究開発部)
参加人数(概数)	出席者名簿によれば講演者も含め 141 名、出入もあり常時 50 名程度。 (内訳) 農水省 30、機構 15、県 45、大学 15、民間・団体 33、情協会 8
1. 会議の概要 (500～1,000 字程度または議事内容の資料添付)	<p>平成 14 年度から農林水産省の事業として開始された本事業は本年度、初年度採択課題が 3 年目を迎えた。その成果発表会を開催して事業成果を PR するとともに、17 年度事業の応募方法等の説明があった。(別添資料参照)</p> <p>(1)成果発表(8 課題のうち畜産関連課題)</p> <p>②1403 「牛海綿状脳症に関わる飼料等の安全性評価法および肉骨粉の不活性化・有効利用技術の開発」 (独)農業・生物系特定産業技術研究機構 動物衛生研究所 プリオン病研究センター長 品川 森一 氏</p> <p>BSE 関連応急対策として実施した(1)飼料や肥料中に含まれる牛肉骨粉の判別技術、(2)牛肉骨粉を高温燃焼による発電と灰化物からの有効成分回収処理技術について今回の発表は、いずれも緊急対策としてすでに公表されている情報で、このセンターによる BSE 騒動の本態に迫るこれからの研究成果が期待される。</p> <p>③1410 「PCR法を用いた乳汁中細菌性毒素の微量検出による早期乳房炎診断法の確立」 東京理科大学生命科学研究科免疫生物学部門 教授 安部 良 氏</p> <p>一連の研究の途中経過的なもので、当協会が平成 14・15 年度に安部氏に委託した課題「乳汁中のスーパー抗原性毒素の遺伝子検出とそれを用いた早期乳房炎診断」との目的、方法、成果のいずれの部分についても重複している部分があることは否定できない。当協会としては、平成 16 年度実施報告を受ける中で、阿部プロジェクト全体計画の中における情報協会課題との仕分け、特に経費の支出について説明を受ける必要がある。</p> <p>(2) 事業説明 「先端技術を活用した農林水産研究高度化事業」の平成 14～16 年度事業内容・17 年度応募方法等について。 農林水産技術会議事務局地域研究課・(社)農林水産技術情報協会 平成 17 年度の競争的資金の予算は政府全体として倍増の方針で、農水</p>

	<p>省に要求額が 238 億円となっている。この高度化事業の 16 年度は 30 億円で、単純に伸び率を掛ければ 17 年度は 70 億円となり、これにより 1 件 500 万円～5000 万円（3 ヶ年）委託される。16 年度の採択率から推定すれば、畜産分野に 9 億円、大学関係に 1.7 億円が当たることになる。</p> <p>これより当協会の委託課題募集の応募の大部分を占める大学関係課題の大半を吸収させることも不可能ではなく、大学関係応募者を積極的に誘導、情報提供を行うべきであろう。（情報協会の募集は平成 17 年 1 月 4 日～28 日）。</p> <p>（3）質疑応答</p> <p>「高度化事業」についてのみ。県関係窓口担当者からの質問が多く、その内容は当協会委託における問題と共通するものであるが、特に 17 年度からは間接経費（10%～30%）が関係府省間の申し合わせとして導入されることが目新しい。</p>
2. 今後の研究開発分野として重要と思われる関連発表	<p>1424 「DNAアレイを活用したトマト果実形質の育種選抜技術の開発」 千葉県農研センター・かずさDNA研究所・野菜茶堯研究所・筑波大学 多数の遺伝子発現を解析できるDNAアレイを作成し、迅速で効率的な育種技術の開発を目指した。</p> <p>家畜育種にも、このようが技術を用いることのできる日を夢見たいものである。</p>
3. その他の発表課題で関心のあったもの	<p>1422 「いちご収穫・選果・調製システムに実用化」 栃木県農試いちご研究室・日本共同企画(株)</p> <p>1426 「きのこ類の孢子欠損性優良品種の育成と迅速な選抜法の開発」 (財)きのこセンター研究所・奈良県森林技術センター・共立薬品工業(株) 両課題とも民間ベースで開発中の機械装置ときのこの品種開発に対する支援。</p> <p>一般予算によるこの事業で、このような支援ができることに注目したい。</p>
4. 今後研究開発課題採択に当たって参考とすべき事項等	<p>冒頭の局長挨拶から事業担当の地域研究課課長補佐による事業説明まで、技会事務局としての意気込みが感じられた。この流れの中で、当協会のささやかな委託事業を実施して行くには、よほどの理念と特色、効果・実績を示してゆくことの重要性を一層感じさせられた。</p>
報告書	針生 程吉